

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870200650
法人名	社会福祉法人 杉の子会
事業所名	グループホーム廣寿苑
所在地	今治市南大門町3-5-33
自己評価作成日	平成23年7月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 [※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載](#)

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成23年8月22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

一人ひとりのペースを大切に、心身状態や有する力等の把握に努め、張り合いや喜びのある日々が送れるよう役割、楽しみごと、気晴らしの支援を行っています。又、本人、家族、担当者などの参加の下、3ヶ月に1回カンファレンスを実施し、現状に即した介護計画の作成実践に努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、地域密着型サービスの重要性をよく理解し、地域の行事や奉仕活動に利用者と職員が積極的に参加し、交流と連携をはかっている。職員は、利用者の望むことを叶えるよう個別のケアに取組み、利用者が家庭的な雰囲気の中で落ち着いて生活できるよう努めている。食事は旬の食材を使用し栄養バランスを考えた献立を立て、彩りや盛り付けにも気を配り、楽しみの一つとして満足してもらえるよう取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない		

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

● 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

● 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

● 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

● 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

● 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

● チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 社会福祉法人杉の子会 グループホーム廣寿苑

(ユニット名) うめ

記入者(管理者)

氏名 妹尾美地子

評価完了日 H23年 7月 25日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 「誰もが気軽に立ち寄り喜怒哀楽を共にし、当たり前の暮らしが送れるように支援してまいります」という理念と「楽しい歌声が響き皆の笑顔がある」というユニットの活動方針のもと皆が気兼ねなく毎日、楽しく生活できるよう職員で話し合い実践している。</p> <p>(外部評価) 設立時の理念を昨年、職員全員で見直し新たな基本理念を作成している。ユニットごとに利用者と職員で基本理念をふまえた活動方針を話し合い、利用者の状況に合わせながら実践につなげている。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 買い物や散歩は近所に出掛け、小学校や地域（公民館）の行事にも参加させて頂き、地域交流に努めている。</p> <p>(外部評価) 地域の盆踊りや祭り等、季節の行事に利用者と職員が一緒に参加しており、ボランティアとして休暇等の職員も協力している。事業所前の道路清掃を利用者と職員が一緒に行っている。事業所主催の納涼祭に地域住民が協力、参加してくれている。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げていく認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 推進会議や家族会を通じて認知症の勉強会を行い、理解を持って頂けるよう努めている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 現在、取り組んでいる内容を報告し意見を頂く事により、よりよいサービス向上に向けて努力している。	
			(外部評価) 利用者や家族、市職員、地域住民代表者等を招き、2か月毎に開催している。事業所の取り組みの状況や課題、外部評価の説明等を議題に挙げ、参加者からの意見や要望をもらいサービス向上に活かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 推進会議に高齢介護課職員の参加を頂き、それ以外も報告、連絡、相談を行っている。	
			(外部評価) 高齢福祉担当者とは日頃から連絡をとり、相談や報告を積極的に行っている。また、地域包括支援センターとも連携をとり、情報交換しながら協力関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 施設内で身体拘束廃止委員会を設け、勉強会を定期的に行い、全職員が拘束しないケアを目指し取り組んでいる。又、基本的な介護の姿勢を身につけるよう意識付けをしている。	
			(外部評価) 法人内で「身体拘束廃止委員会」を設置し、検討された内容を管理者が職員に報告している。職員は、拘束になる具体的な行為について正しい理解に努め、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。外出傾向のある利用者の所在を30分毎にチェック表で確認している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 虐待防止の勉強会を実施し、職員間で見過ごしのないよう日々注意を払い、防止に努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 権利擁護に関する研修会に参加したり、勉強会を行い内容等を把握し、活用できるよう支援している。現在1名の利用者があり、地域福祉権利擁護事業所職員とも、密に連絡をとっている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 利用者と家族、事業所で説明や話し合いを行い、不安や疑問点、要望を伺いながら、理解、納得して頂けるよう心掛けている。特に認知症高齢者に起こりうるリスクや、重度化についての対応なども詳しく説明し同意を得るようにしている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 家族会や推進会議の定期開催や、カンファレンス、ケアプラン評価にて意見、要望をお聞きしている。	
			(外部評価) 重要事項説明書に苦情申立先を明記し、意見箱を設置している。利用者からの要望等については双方でよく話し合い、内容を申し送り書や日誌に記録し運営に反映している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	<p>(自己評価) 合同ミーティングでは、職員の要望や意見が気兼ねなく出せるよう雰囲気作りに努め、管理者、職員間でよりよい意見交換ができるようにしている。</p> <p>(外部評価) 代表者は、毎月開催される会議の内容の報告を受けている。また、食事会や飲み会などを催し、話しやすい雰囲気の中で良好な関係を構築している。日頃から意見や提案を聞く機会を設けており、それらを運営に反映させている。</p>	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	<p>(自己評価) 職員が楽しく就労できるように勤務調整を行い、勤務シフトを作成している。また利用者の変化に気づき素早い対応ができるよう努めている。</p>	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	<p>(自己評価) 積極的に研修会に参加を行い、研修後は全職員が共有できるよう研修内容の報告を行っている。</p>	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	<p>(自己評価) 研修会に参加し、他施設の方と意見交換や情報交換をし交流を図っている。</p>	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	<p>(自己評価) 会話の中から何気ない一言にも気を止めながら不安や思いに気付けるよう努め、利用者が安心して暮せるよう努めている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 御家族様が求めているものを理解し、事業所としてどのような対応ができるか、事前に話し合いを行っている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 相談時の本人、家族の実情や要望をもとに、その時点で何が必要かを見極め、事業所としてできる限りの対応に努めている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 教わる事や気付かされることも多く、日々、喜び楽しみを共にしながら、互いの関係性を築く努力をしている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 家族の思いをしっかりと聞きし、それらに答えられるよう努めている。又、家族様には無理のない範囲での行事参加や面会を促している。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 大切にしてきた馴染みの人や、場所との関係が途切れないように、積極的に出掛けている。 (外部評価) 美容院やスーパー等の行きつけの店や、神社、学校等の馴染みの場所に散歩に出かけている。また、墓参りや遠方の親族に会いに行ったり、電話や手紙の代行をする等今までの関係が途切れないよう関係支援に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) レクリエーションや行事等を通じて、利用者同士が関われるような環境作りに努めている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 退所後も築いた関係を大切に、適切なアドバイスが送れるよう繋がりを持っている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 日々の中での何気ない会話の中から思いを汲み取っている。又、カンファレンス時にも、希望、要望を確認している。	
			(外部評価) 日常の会話や様子等で、一人ひとりの思いや意向の把握に努めている。困難な場合は、家族からの情報等をもとに利用者本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境シートの活用をし、ケアプランに取り入れ毎月評価を行っている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 普段と違う言動、表情などの観察を行い、日々の申し送りで全職員が状況把握できるよう努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 全職員が利用者の個別担当を持ち、月1回の評価や3ヶ月に1回のカンファレンスで、本人や家族の意見、要望を伺い反映できるようにしている。	
			(外部評価) 毎月モニタリングを行い介護計画の実施状況を確認している。また、3か月毎にカンファレンスを利用者や家族、職員が参加して行い、介護計画を作成している。家族の意見や感想ももらい反映させるようにしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 介護記録には、ケアプラン以外の日々の様子や発している言葉も記入し、職員間で情報を共有している。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 本人や御家族様の状況を把握し、急病による病院受診、通院など必要な援助を行っている。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 近所の衣料店などに買い物に出掛けたり、小学校の行事にも参加する事により、地域の方との交流を図っている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 以前から利用している、かかりつけ医での医療が受け られるよう、御家族様同行時には介護要約を持参して頂 き、かかりつけ医との関係を築きながら適切な医療が 受けられるよう支援している。	
			(外部評価) 利用や家族の希望する医療機関に家族同行で受診して いる。また、月2回、協力医の往診も受けることがで きる。利用者や家族が安心して生活するために、適切 な医療が受けられるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 毎朝のバイタル測定や表情の変化の発見をし、看護師 への報告、指示をもらい、申し送りなどで共有してい る。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院で きるように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 入院時には、介護サマリーを病院に提供している。 又、利用者の面会を行い、病院とも情報交換を行なっ ている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合 いを行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 面会時や家族会などの話し合いの中で、家族と本人と の関係、又、本人の希望を聞き、一番良い方法が取れ るよう努力している。	
			(外部評価) 入居時や利用者の状態に合わせて、利用者や家族と話 し合いを行い、事業所の方針を説明している。かかり つけ医や協力医等とも連携を取りながら、利用者が望 むケアに取り組むよう体制を構築している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 急変や事故発生時に備えて勉強会を行い、未然に防げるよう取り組んでいる。又、事故発生時には事故・ヒヤリハット報告書を作成し、今後の対策を話し合い、全職員が共有している。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 年2回の避難訓練を行なっている。又、日頃より消火器の位置や避難経路の確認、利用者の状態の把握に努めているが、近隣民家の協力体制は難しいものがある。 (外部評価) 避難訓練マニュアルや緊急連絡網を作成し、消防署の協力を得て年2回の避難・防火訓練を行い、記録もされている。今回は夜間想定訓練を地域住民の協力を得て行うよう予定している。1週間ほどの備蓄を準備して災害に備えている。	避難訓練の行動が身に着くよう、自主的訓練を計画的に繰り返し実施することが望まれる。地域の防災組織について運営推進会議で確認し、地域の協力が得られる取り組みが期待される。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 利用者は人生の先輩という事を基本に、人格を尊重しプライバシーを損ねないよう、言葉使いなど気をつけて対応している。 (外部評価) 人生の先輩として尊重する気持ちを持ち、声かけ等も利用者のプライドを傷つけないよう配慮している。特に、排泄や入浴の時にはプライバシーを損ねないよう気をつけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 少しでも本人が決める場面を作り、ゆっくり無理ないよう関わられるよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 一人ひとりのペースを大切にし、できる限り希望に添えるよう支援している。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 毎日、身だしなみやおしゃれが楽しみながらできるよう支援している。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 一人ひとりの能力を把握し、食事の下準備や片付け等、できる事をして頂いている。又、月2回の自由食の日を設け、食べたい物を聞きメニューに取り入れている。 (外部評価) 利用者の食べたいものを献立に入れたり、季節の食材を使用し栄養のバランスを考慮しながら、利用者が楽しく食事ができるよう取り組まれている。刻みにする場合も配膳後その場で行い、料理を目で見て楽しむことができる配慮もしている。職員は利用者と一緒に食事をした後片付けも一緒に行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 一人ひとりの状態を把握した上で調整を行い、水分量に気をつけ不足しないように努めている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後、一人ひとりにあった方法で実施している。又、歯科受診者は、その都度歯科医からアドバイスを頂き対応している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 排泄については、管理者のもと日々勉強し知識を深めている。又、その人に合った排泄用品の検討を行い、日中はできる限りトイレにて排泄して頂き、不快なく過ごせるようにしている。	
			(外部評価) 一人ひとりの排泄パターンを把握して、トイレでの排泄を支援している。夜間は安眠を妨げないよう紙おむつやポータブルトイレを使用する等、利用者の状態に合わせてケアが行われている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 個々のノートを作成し、便秘時の薬を記入している。又、できる限り内服薬には頼らず、乳製品や水分摂取等で対応している。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 入浴は毎日準備できているが、個々の希望に合わせて週2回以上は入浴できている。拒否の場合は、職員変更や清拭、足浴などで清潔保持を心掛けている。	
			(外部評価) 週3日を基本に、毎日入浴できるよう一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、個々に応じた入浴を支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 日中は無理のないよう軽作業を提供し、夜間の不眠時はフロアで一緒に過ごし、温かい飲み物を提供し、就寝を促している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 一人ひとりの服薬ノートを作成し、全職員が把握確認できるようにしている。又、処方の変更、状態変化が見られた時は、看護師や医療機関との連携が速やかに図れるようにしている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) レクリエーションや軽作業を取り入れながら、毎日楽しく過ごせるように努めている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 馴染みの場所や好きな物を把握し、希望に沿った外出支援、小人数での計画、実践を行っている。	
			(外部評価) 年間計画を立て、季節ごとに花見やぶどう狩り等に出かけたり、近くのお寺等にも散歩に出かけている。利用者の希望でショッピングや外食等にも積極的に出かけている。車いすの利用者も一緒に外出できるよう工夫している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 希望を聞き、職員同行にて買い物や外食に出掛け、その人に合った支払い方法ができるよう支援している。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 電話は、本人の希望時や家族の状況を把握しながら行っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 空気の入れ換えを行い、外気温を感じて頂いている。又、壁画装飾や日めくりのカレンダーを置き、季節に応じた会話を心掛けている。	
			(外部評価) 共用の空間は清潔に保たれており、気になる臭いや不快な音等ないよう配慮している。季節の花を飾り、利用者手作りの座布団を置くなど、居心地よく過ごせるよう工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 一人ひとりがゆったり過ごせるように廊下の隅などに椅子を置き、思い思いにくつげる場所を確保している。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 昔から使用している物を持ち込む事により、居心地良く過ごせるようにしている。	
			(外部評価) 利用者の使い慣れたダンスやテーブル、ベッド、仏壇を持ち込み、家族の写真や手作りの作品を飾って、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) わかりやすいように目印をつけたり、一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かせるよう支援している。	

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870200650
法人名	社会福祉法人 杉の子会
事業所名	グループホーム廣寿苑
所在地	今治市南大門町3-5-33
自己評価作成日	平成23年7月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 [※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載](#)

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成23年8月22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

食べることの喜び、気持ちのよい排泄ケア、希望への実現化の実践に向かって、全職員の気付きを介護記録に残し、それらを共有支援に取り組んでいます。又、常に新しい知識や介護技術の習得を心掛け、利用者さんが安全で安心できるケアを目指しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、地域密着型サービスの重要性をよく理解し、地域の行事や奉仕活動に利用者と職員が積極的に参加し、交流と連携をはかっている。職員は、利用者の望むことを叶えるよう個別のケアに取組み、利用者が家庭的な雰囲気の中で落ち着いて生活できるよう努めている。食事は旬の食材を使用し栄養バランスを考えた献立を立て、彩りや盛り付けにも気を配り、楽しみの一つとして満足してもらえるよう取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人の関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名	社会福祉法人杉の子会 グループホーム廣寿苑
(ユニット名)	さくら
記入者(管理者)	
氏名	妹尾美地子
評価完了日	H23年 7月 25日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 全職員が考えた「誰もが気軽に立ち寄り喜怒哀楽を共にし、当たり前の暮らしが送れるよう支援してまいります」というホームの理念と「笑い声が聞こえ美味しい食事の匂いがする」という活動方針を掲げ、常に利用者の立場に立ち必要とされているサービス提供が、満足に繋がるよう努力している。</p> <p>(外部評価) 設立時の理念を昨年、職員全員で見直し新たな基本理念を作成している。ユニットごとに利用者と職員で基本理念をふまえた活動方針を話し合い、利用者の状況に合わせてながら実践につなげている。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 小学校で実施されている地域の方との交流活動の参加や、地域行事にも出掛け顔馴染みになってきている。又、自施設の夏祭りでは、婦人会や推進会議メンバー、近隣の方々の参加で交流も深まり、認知症や事業所についての理解も広がってきている。</p> <p>(外部評価) 地域の盆踊りや祭り等、季節の行事に利用者と職員が一緒に参加しており、ボランティアとして休暇等の職員も協力している。事業所前の道路清掃を利用者と職員が一緒に行っている。事業所主催の納涼祭に地域住民が協力、参加してくれている。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 家族会や推進会議、法人内のケアハウス入居者などに、認知症の理解や接し方の勉強会を行っている。又、短大実習生や高校生の職場体験等も、定期的に受け入れている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実 際、評価への取り組み状況等について報告 や話し合いを行い、そこでの意見をサービ ス向上に活かしている	(自己評価) 家族・利用者・民生委員・公民館長・行政（市高齢介 護課）などの参加の下、苑便り（2ヶ月に1回発行） で利用者の活動内容の報告を行い、課題のアドバイ スを頂いたり、専門的な意見交換を行いながら、サービ ス向上、改善に向けての話し合いが持たれている。	
			(外部評価) 利用者や家族、市職員、地域住民代表者等を招き、2 か月毎に開催している。事業所の取り組みの状況や課 題、外部評価の説明等を議題に挙げ、参加者からの意 見や要望をもらいサービス向上に活かしている。	参加者からもらった意見や要望をケアや運営に活かした経過を記録し、分かりやすい議事録になるような工夫を期待したい。議題によっては、関係者や有識者等の様々な立場の方へ参加や協力依頼することについて検討するよう望みたい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、 事業所の実情やケアサービスの取組みを積 極的に伝えながら、協力関係を築くように 取り組んでいる	(自己評価) 推進会議メンバーである担当者には、議題を提案して もらったり、考え方や実態をよく知って頂き共有して いる。又、自ら高齢介護課に出向いたり、認定更新の 機会には、担当者へ暮らしぶりやニーズを具体的に伝 え連携を深めている。	
			(外部評価) 高齢福祉担当者とは日頃から連絡をとり、相談や報告 を積極的に行っている。また、地域包括支援センター とも連携をとり、情報交換しながら協力関係を築いて いる。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準におけ る禁止の対象となる具体的な行為」を正しく 理解しており、玄関の施錠を含めて身体 拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 平成22年度より、法人全体で身体拘束廃止委員会を 立ち上げ、定期的に勉強会を実施し、全職員が拘束し ないケアを目指し取り組んでいる。玄関は防犯上の 為、18時30分から7時30分まで施錠し、他は開 放して自由な暮らしを支援している。	
			(外部評価) 法人内で「身体拘束廃止委員会」を設置し、検討され た内容を管理者が職員に報告している。職員は、拘束 になる具体的な行為について正しい理解に努め、身体 拘束をしないケアに取り組んでいる。外出傾向のある 利用者の所在を30分毎にチェック表で確認してい る。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 法人内で、虐待防止委員会を設け勉強会を実施したり、職員会や申し送りなどで、高齢者虐待防止法の関する理解浸透や、遵守に向けた取り組みを行っている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 現在1名の利用があり、随時、アドバイスをしながら、安心して活用できるよう関係機関と協力体制をとっている。又、「成年後見制度」「地域福祉権利擁護事業」については、研修会参加や定期的に勉強会を開き理解に努めている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約時は、事業所のケアに関する考え方や取り組み、退居を含めた事業所の対応加納な範囲についての説明を行っている。又、利用者の状態変化により契約解除に至る場合は、家族等と対応方針を相談している。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 来訪時、家族会、食事会、カンファレンスなどで、利用者の生活状況の報告を行い、家族からも要望や意見を出していただいている。又、毎月の介護経過評価表にも、家族の意見や要望記入欄を設けたり、玄関に投書箱を設置し、運営業務や日々のケアに活かしている。 (外部評価) 重要事項説明書に苦情申立先を明記し、意見箱を設置している。利用者からの要望等については双方でよく話し合い、内容を申し送り書や日誌に記録し運営に反映している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	<p>(自己評価) 研修参加を一緒にしたり、勉強会など日頃からコミュニケーションを図るように心掛け、信頼関係の構築に努めている。又、運営者とは現場での報告を密に行い、職員の意見を反映させながら質の向上に取り組んでいる。</p> <p>(外部評価) 代表者は、毎月開催される会議の内容の報告を受けている。また、食事会や飲み会などを催し、話しやすい雰囲気の中で良好な関係を構築している。日頃から意見や提案を聞く機会を設けており、それらを運営に反映させている。</p>	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	<p>(自己評価) 勤務シフトは希望休や有休休暇も取り入れ、楽しく就業できる環境を整備し、公平なシフトになるよう工夫している。又、職員の努力や成果について把握し、やりがいや向上心を持って働けるよう職能評価を行い、資格取得に向けての支援も行っている。</p>	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	<p>(自己評価) 職員の質の確保、向上に向けた育成が不可欠であることを理解し、各自の立場、経験や習熟度の段階に応じた研修の機会を、計画的に確保している。又、研修案内は事務所や、ホーム内に掲示し参加を促している。</p>	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	<p>(自己評価) 地域密着型サービス協会実施の研修会には、毎回職員1名以上参加、又、相互研修にも毎年参加し、事業所以外の人材意見や経験をケアに活かしている。</p>	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	<p>(自己評価) 事前面談で生活状態の把握ができるよう、ご本人の求めていることや、不安なことを受け止め、安心してもらえるような関係づくりに努めている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 今迄の生活状態や、サービスの利用状況などの経緯についてゆっくり傾聴し、事業所としてどのような対応ができるか、事前に話し合いをしている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 本人や御家族様の思い、状況等を再確認し、必要なサービスの情報を、迅速に提供できるように努めている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 利用者の喜怒哀楽に関心を寄せながら一緒に過ごし、一人ひとりの言動から分かり合えること、支え、支えられることを日常の中で理解。お互いが協力しながら、穏やかな生活ができるように場面づくりや声掛けを行っている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 家族には誕生日会・ソーメン流し・夏祭り・家族会・食事会などの行事参加を呼びかけ、利用者・家族・職員三者一体となり、楽しみ交流を深めあい、より良い関係作りができています。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 本人を支えてくれたり、支えてきた取り巻く人間関係について把握するよう努め、電話連絡や訪問をし、馴染みの人や場所との継続ができるよう働きかけている。 (外部評価) 美容院やスーパー等の行きつけの店や、神社、学校等の馴染みの場所に散歩に出かけている。また、墓参りや遠方の親族に会いに行ったり、電話や手紙の代行をする等今までの関係が途切れないよう関係支援に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 心身の状態や、気分、感情の変化が日々見られる為注意深く見守り、利用者同士の関係がうまくいくように、職員が調整役となり支援している。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 退居後も入院中の利用者を面会したり、家族の相談や、必要に応じ施設紹介等も行い、継続的な付き合いができるように心掛けている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 利用者の言葉や表情などからその真意を確認したり、意思疎通が困難な方には、御家族様から情報を得ている。毎月ケアプランの経過報告のコメントを頂くようにし、3ヶ月に1回実施しているカンファレンスには、家族参加を促し希望が実現となるよう努めている。 (外部評価) 日常の会話や様子等で、一人ひとりの思いや意向の把握に努めている。困難な場合は、家族からの情報等をもとに利用者本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 馴染みの私物を居室に置き、使いやすくし親しみある環境作りに努めている。又、家族の協力を得、センター方式B3シート（私の暮らし方シート）を活用し、生活歴・馴染みの暮らし等を把握しながら、それらが継続できるよう支援している。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 毎日のバイタルチェックの実施、食事・睡眠・排泄活動など個別チェック表に記載し、個々の体調変化の早期発見に努めている。又、できること、わかる力を暮らしの中で発見しながら、一人ひとりの生活リズムを大切にしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	<p>(自己評価) カンファレンスは、本人・家族・担当職員などの参加の下実施。ケア内容は、介護記録記入の際いつも確認できるファイルにし、介護経過・評価表は担当職員が記入、介護計画作成者が確認を行う。又、家族にもコメントやサインを頂き、常に利用者が自分らしく暮せるよう介護計画作成に努めている。</p> <p>(外部評価) 毎月モニタリングを行い介護計画の実施状況を確認している。また、3か月毎にカンファレンスを利用者や家族、職員が参加して行い、介護計画を作成している。家族の意見や感想ももらい反映させるようにしている。</p>	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	<p>(自己評価) ケアプランに沿ったチェック表を作成実践し、新たな気づきや工夫は介護記録に記載、申し送りや日々の業務の中で情報共有をしている。又、それらを参考にしながら介護計画の見直しを行っている。</p>	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	<p>(自己評価) 本人や家族の要望に応じて、外泊や外出の支援を行っている。月2回の往診の協力を得たり、利用者の状況に応じて、受診・通院・送迎など柔軟な対応も行っている。</p>	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	<p>(自己評価) 南光坊や別宮大山祇神社のお参りや、小学校のたんぼぼタイム、地方祭など体調に合わせて外出し、馴染みの方との出会いを楽しみにしている。又、家族の協力を得、馴染みの美容院へも出掛けたり、ボランティアの訪問を設定し交流を図っている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	<p>(自己評価)</p> 利用者個々のかかりつけ医を持ち、御家族様が付き添 われたり、協力病院医師による月2回の往診もある。 専門医受診や、緊急時、家族の都合で協力が得られ ない場合は、主に看護師が同行、又、家族同行時は、介 護要約記録を提供し、適切な医療が受けられるよう支 援している。	
			<p>(外部評価)</p> 利用や家族の希望する医療機関に家族同行で受診して いる。また、月2回、協力医の往診も受けることがで きる。利用者や家族が安心して生活するために、適切 な医療が受けられるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	<p>(自己評価)</p> 看護職員を配置し、常に利用者の健康管理や状態変化 に応じた支援を行えるようにしている。又、看護師不 在時は、法人内他部署の常駐看護師との連携も、密に とれる体制が確保されている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できる ように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	<p>(自己評価)</p> 入院時には介護サマリーを提供し、回復状況を見なが ら医療機関と連携を図っている。又、家族とも情報交 換し、速やかな退院支援に結びつけている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	<p>(自己評価)</p> 契約時に、看取りに関する指針に添って、事業所が対 応し得る最大のケアについて説明を行い、理解と同意 を得ている。又、家族会、カンファレンス時、面会時 や状態の変化があるごとに話し合いを持っている。	
			<p>(外部評価)</p> 入居時や利用者の状態に合わせて、利用者や家族と話 し合いを行い、事業所の方針を説明している。かかり つけ医や協力医等とも連携を取りながら、利用者が望 むケアに取り組むよう体制を構築している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 救急法やAEDの使い方の講習を受け、初期対応がスムーズに行えるよう、定期的に勉強会を行っている。又、夜間時の緊急対応についてのマニュアルも作成している。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 全職員が日々消火器の位置や避難経路を確認し、又、利用者の歩行レベルや身体状況の把握が一目で分かるよう、業務日誌に記載し共有している。推進会メンバーに近隣者の参加もあり地域の協力依頼を行っている。 (外部評価) 避難訓練マニュアルや緊急連絡網を作成し、消防署の協力を得て年2回の避難・防火訓練を行い、記録もされている。今回は夜間想定訓練を地域住民の協力を得て行うよう予定している。1週間ほどの備蓄を準備して災害に備えている。	避難訓練の行動が身に着くよう、自主的訓練を計画的に繰り返し実施することが望まれる。地域の防災組織について運営推進会議で確認し、地域の協力が得られる取り組みが期待される。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 利用者一人ひとりの人格を尊重しながら、一番心地良い呼び名や声掛けを心掛け、プライバシーにも配慮している。又、職員が発している言葉や語調などを注意し合い、意識向上を図っている。 (外部評価) 人生の先輩として尊重する気持ちを持ち、声かけ等も利用者のプライドを傷つけないよう配慮している。特に、排泄や入浴の時にはプライバシーを損ねないよう気をつけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 共に過ごす中で、利用者に合わせて声掛けや表情を読み取り、些細なことでも利用者自身が決定できるよう、ゆっくり待ち希望が叶うよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 日々の暮らしがその人らしいものとなるよう、その時々々の望みを大切にし、買い物や散歩など個別性のある支援を行なっている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) できる限り本人の好みで整えられるようお膳立てをしたり、乱れの手直しなどを行っている。又、できることを大切に見守りながらサポートを行い、馴染みの美容室へ出掛けたり、訪問美容師によるお洒落もできている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 彩り、香り、食器などの工夫を行い、見た目で楽しみ食べて楽しみ「食」に関して様々な取り組みを試みている。又、調理や盛り付け片付けなどは、利用者個々の力を活かしながら職員と一緒にいき、ホーム内の畑で採れた野菜も利用し、楽しく食事ができるよう雰囲気づくりも大切にしている。 (外部評価) 利用者の食べたいものを献立に入れたり、季節の食材を使用し栄養のバランスを考慮しながら、利用者が楽しく食事ができるよう取り組まれている。刻みにする場合も配膳後その場で行い、料理を目で見て楽しむことができる配慮もしている。職員は利用者と一緒に食事をした後片付けも一緒に行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 栄養士の献立表と、その日に利用者と一緒に相談しながらメニューを決定し、バランスの良い食事作りと、咀嚼や嚥下に合った調整方法で提供している。又、飲水量や摂取量、排泄頻度は個別チェック表を作成し、体重増加の防止や水分不足がおこらないよう健康管理に努めている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 一人ひとりの状態に合った口腔ケアを実施し、歯科往診の利用や口腔ケアセットの消毒日（毎週日曜日）を決め、清潔保持に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 入居者の兆候や、個々の排泄パターンの把握と排泄用品の使い分けを行い、日中は可能な限りトイレで排泄できるように支援している。又、排泄後は洗浄清拭を行い、常に尿臭のない気持ち良い下着で過ごせるよう工夫している。	
			(外部評価) 一人ひとりの排泄パターンを把握して、トイレでの排泄を支援している。夜間は安眠を妨げないよう紙おむつやポータブルトイレを使用する等、利用者の状態に合わせてケアが行われている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 繊維質の多い食材や乳製品を取り入れたり、腹部マッサージ、適度な運動を働きかけ、自然排便できるよう取り組んでいる。又、食事摂取量、飲水量、排尿、排便チェックを行い継続的に便秘予防の工夫を行っている。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 浴室内も造花やシール等で明るく飾りつけ、楽しい場所となるよう工夫している。又、本人のこれまでの生活習慣や、希望に合わせた自由な入浴を心掛け、夜間入浴も取り入れている。	
			(外部評価) 週3日を基本に、毎日入浴できるように一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、個々に応じた入浴を支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 日中の活動量の調整を行いながら休憩を取り入れ、1日の生活リズム作りをしていくアプローチを行っている。又、夕食後飲み物を提供し、テレビ鑑賞や雑談などでゆったり過ごせ、安眠に繋げる工夫を行っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 用法や用量が誰にでも分かるように薬ノートを作成し、薬は個別ケースに収納施錠をし管理している。又、服薬時は一人ひとりに合った服薬を行い、きちんと服用できるよう確認をしている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 一人ひとりの経験や、有する力をふまえた役割や楽しみごと等を作り出す支援を行っている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) その日の利用者の状態や、希望、季節や地域のその時々状況に応じて、一人ひとりが外出を楽しめる支援に取り組んでいる。特に住み慣れた場所や、記憶にある方との面会など、今、望んでいることの実現化を目指している。家族の協力は同一の利用者が多いが、昨年、名古屋の娘さんに会いに行かれた、80歳女性の事例もある。 (外部評価) 年間計画を立て、季節ごとに花見やぶどう狩り等に出かけたり、近くのお寺等にも散歩に出かけている。利用者の希望でショッピングや外食等にも積極的に出かけている。車いすの利用者も一緒に外出できるよう工夫している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 小遣いは金庫で保管し、外出時には利用者一人ひとりの力に合わせた支援を行っている。又、小遣帳で管理し、家族来苑時に確認して頂いている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 日常的に、誰でも気兼ねなく電話がかけられるように支援しているが、書くことを希望されない利用者が多く、年賀状を送る程度である。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 玄関には利用者手作りの座布団を置き、季節の花や壁面で季節感を取り入れている。又、共有空間の壁面は毎月取り替え、居心地よく安心感のある場所になるよう工夫し、常に換気を行い不快感を与えないよう心掛けている。	
			(外部評価) 共用の空間は清潔に保たれており、気になる臭いや不快な音等ないよう配慮している。季節の花を飾り、利用者手作りの座布団を置くなど、居心地よく過ごせるよう工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 利用者同士がくつろげる場所や、一人でゆったり過ごせる場所の確保、又、中庭にベンチを置き外気浴を楽しんだり、草花を見たり、畑仕事をして心身がリフレッシュできるよう支援を行っている。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 使い慣れた用品に囲まれ、心地よく暮して頂けるよう支援している。又、写真や仏壇を持ち込み、毎朝御飯をお供え自宅と変わらぬ生活を継続している。	
			(外部評価) 利用者の使い慣れたダンスやテーブル、ベッド、仏壇を持ち込み、家族の写真や手作りの作品を飾って、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 自分の力を活かし動けるような設えをし、ドアやトイレには認識できる工夫と、身体レベルに合った高さを目印をつけている。又、利用者の自立を意識した家具配置の工夫も行っている。	